

リレーエッセイ

職員自身もいつ自分に順番が回ってくるかが分からない、ドキドキのコーナー。職員も知らないあの職員の内側をのぞけると、職員間でひそかな人気です♪

「冬の楽しみ」(笹川(義)職員からのリレーテーマ)

私の冬の楽しみはバレンタインです。少し先ですが2月なので冬になって。私のバレンタインは買うのではなく、みんなで作るお菓子を決め担当を決め作ってその後にパーティーをする…



毎年、友達と行っています。今年はカヌレ・マカロン・ケーキ・チョコファウンテンで私の担当はカヌレとマカロン作り、チョコファウンテン用のチョコと食材の準備です。ケーキ担当の友達はくしゃみで粉を吹き飛ばしたり、生クリームをひっくり返して私にかかったり色々トラブルもあったけどなんとか完成。パーティーの時はその事を話したり仕事の事、彼氏彼女等たわいもない話をして笑ったり悩みを相談したりいつものバレンタインはこんな感じです。1年の楽しみの1つ…さて来年は何を作ろうかな。

ららん 秋元光希

「人生のピンチ！」(阿部職員からのリレーテーマ)

昔むかし。8月31日の夕暮れ、小学生だった私は、家の2階で一人泣いていた。外は真っ赤な夕焼け空。階下からは家族の笑い声。私は孤独だ。

夏休みは今日で終わりだ。でも、遊び呆けていたせいで宿題が終わっていない。夏休み帳が終わったのは1時間前。本を読まずに読書感想文を書き上げるという神業も午前中にやった。今日1日、我ながらすごい勉強量だ。

最後に残ったのは絵だ。ところどころ涙と鼻水でにじんだ夕日の絵は何とか完成した。ところが、その絵がなんと絵画展で入選したのだ。にじみと塩味が受賞ポイントか。

なーんだ、やればできるじゃん私。と、違う方向での自信がついてしまった私は、その後も、毎年8月31日になるたびに「人生のピンチ」を迎えたとき。めでたしめでたし。

にこ 星野すす子



秋元職員からのリレーテーマは「お菓子にまつわる話」、星野職員からのリレーテーマは「3番目くらいに恥ずかしい思い出」です。また次回もお楽しみに！

りとるの新しい仲間たち ～新入職員ご紹介～



こんにちは、笹川直子と申します。9月21日よりららんの一員として勤務しております。「笑う門には福来る」をモットーに笑顔で頑張ります。まだまだ不慣れですが、よろしくお願ひいたします。



9月21日より、りとるらいふにてお世話になることになりました。笹川晴基と申します。皆さんと一緒に色々な体験を経験し、楽しいこと・嬉しいことを共有できればと思っています。宜しくお願いします。

アールブリュット展 開催!

11/18(金)～11/23(木)の期間でアールブリュット展を開催します。

今年は高田小町・旧今井染物屋・警女ミュージアムの3会場を用意しました。妄想かるたの制作や身近にアールブリュットを体験して頂ける場所もございます。ぜひお越しください！お待ちしております。

お知らせ

以下の通り職員の人事異動がありましたのでお知らせ致します。

入職 10月21日付
高橋 理瑠

異動 10月21日付
笹川 隼也 若竹寮へ異動

退職
矢澤 優佳

りとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日: 2017年11月

一段と日が暮れるのが早くなり、朝晩の冷え込みがきびしい季節となりました。そんなちょっとした変化からも冬の訪れを感じます。気温の変化が激しいですが、皆様風邪等引いていないでしょうか? 今の時期は紅葉がきれいに色づき、見ごろのところが多そうです♪ 残り少ない秋も皆さん一緒に楽しんでいきましょうね。それでは11月の通信をお届けします!



りとる感謝祭 2017 開催!

一昨年は雨風に、昨年も雨に続き今年はどうかな…なんて思っていたのですが、今年は、少し暑いくらいの秋晴れの下「りとる感謝祭2017」を無事に開催することが出来ました!



今年の感謝祭ですが「ご利用者様・ご家族様にグループ・法人の力を借りてありがとうを伝える日」というテーマの下で準備して参りました。出店ブースには宇喜世さんの芋煮汁、やさいのひさんのカレーライス、いろり庵さんのおせんべい焼き体験など、同グループ企業さんに出店して頂き、無料にて提供させて頂きました。



← おせんべい焼き体験

タトゥーシール →



ミニアールブリュット展



2階では、NASCの方の協力で「ミニアールブリュット展」を行い、りとるらいふのご利用者様の作品を展示致しました。生活介護事業所さのら雑貨屋 moteの販売、作業体験で「さをり織り体験」や訪問理美容による「タトゥーシール体験」など多くの企業さんにご協力頂き、普段できない体験が出来たのではないかと感じます。他にも、JCVさんのブースでは輪投げ、アトラクションブースではハロウィンの制作やペットボトルボウリングが出来、子どもたちも盛り上がりおりました。ステージではジェイミーのダンスを踊ったり、1等「宇喜世お食事券」などが当たる抽選会や帰ってきた「LITTLE RAVE SOUR」のバンド演奏もあり観客の皆さんから、手拍子やたくさんの声援を頂きました。

また来年も、ご利用者様を初めご家族の皆さんにも、日頃のありがとうを伝えられるような感謝祭を目指して参ります。お越しいただいた皆さんありがとうございました。そして、また来年もお楽しみに!

片桐前事業部長もサプライズ登場! りとるバンドのLIVE!





小旅行に行ってきました♪

～きらの活動より～

今年もきら小旅行の季節がやってきました！今年は3コースをご用意し、皆さんにお好きなコースを選んでいただきました。

①白根グレープガーデン

新潟市にある白根グレープガーデンでは、園内一面にぶどうや梨がたわわに実っていて、その景色を眺めるだけでおなかいっぱいになってしまうほどでした。ぶどう狩りはもちろん、濃厚なジェラートも味わうことができ、皆さんお土産のフルーツを抱えて笑顔で帰ってくることができました。



②長岡リバーサイド千秋

定番のお買い物メインのコースで、参加された方は事前に欲しいものをリストアップされたり、行きたいお店をチェックされていました。同行した職員と一緒に洋服を選んで、何回も試着をして決めたりするなど、友達とショッピングに行く感覚で楽しんでいただくことができました。



③上越市内ランチ

上越市内の美味しいイタリア料理を食べに行ってきました。キャナリー・ロウとフルーツの2店にそれぞれ出かけ、今年もあいかわらず素敵な店員さんたちに出会うことができ、心までホっとするひとときでした。普段のサンクス弁当ももちろん美味しいけど、やっぱりパスタとピザの魅力には適わず、皆さんホクホク笑顔で帰ってこられました。



～ありがとう笹川さん矢澤さん！～

～ららの活動より～

ららんではみんながだいすきだった2名の職員が異動・退職になり、「何かをしたい！」という子どもたちの声で小さなお別れ会を企画しました。高校生の利用者さんが考えた物語を事前に練習し、周囲の友だちと共に役割を決め劇にして披露したり、職員との最後のウノを楽しんでいる子もいました。宿題中にこっそり書いた寄せ書きをプレゼントすることもでき、2名の職員に感謝の気持ちを伝えることが出来ました。

笹川さん・矢澤さん新しいところに行っても頑張ってください！



～また、お二人よりメッセージも来ています～
「ららんをご利用くださっている皆様とたくさんの経験が出来た事、心より感謝しております。3年半、本当にありがとうございました。」

笹川さん・矢澤さんより

楽しいお出かけ＊

～にこの活動より～

みなさんこんにちは。渡辺です。
にこでは外出活動の一環で中、高校生のみんなで高田駅前と新井の2グループに分かれてクレープ屋さんの「ぱるふえ」に行ってきました。事前に用意したメニューをみんなで眺めながら「何にしようかな」「迷うなあ」など、好きなものをお互いに言い合いながら職員も一緒になって考え準備を進めました。メニューも豊富でおいしそうなかレープがたくさん♪事前に決めていったものの、目の前に美味しそうな写真が並びとついつい目移りしますよね。たくさん迷いながら好きなものを選び、支払いも上手に落ち着いてすることができました。ボリュームもたっぷりとても美味しかったようで、先に食べ終わった利用者さんは他の方のクレープを横目でジロジロ見たり、中には「おかわり！」という方まで。また今度行きましょう♪
次回はどこへ行きますでしょうか♪お楽しみに♪



秋の空に

障害福祉事業部りとるらいふ 事業部長 丸田明久

2017年、あと2ヶ月ほどで早くも終わろうとしています。私たち、りとるらいふも変化があった一年でした。

変化は様々にあり、変わるもの、少しだけ変わるもの、そして変化をしないように見えるものもあるでしょう。どちらがよいかという単純な話ではないでしょう。よいこともそう見えないこともありうるからです。

ただ、変化はチャンスにもなる。変化ということは、決してネガティブな面ばかりではないのです。今回は、そんな【変化】などについて考えてみたいと思います。

◆「基準」を変える

「過去」を認める一方で、その「過去」から少し距離をおき、「過去≠これまでの基準」というそのベースを変えていく工夫が生活を豊かにする可能性を持つことなのでしょう。

私たちはこれまでの「基準（経験）」で物事を考えます。しかし、ところ変われば「基準」が異なります。これは私たち自身でも、友人・知人・隣近所、はたまた家族でさえ「基準」が違ふことがあり、それがむしろ“普通”なことなのです。前によかったことが、必ずしもこの先もBSETであり続けることにはならないのです。

例えば、私たちのショートステイです。ほんの6年ほど前の開設当初は次のように言われたものです。

「連泊できないなんて」

「日中は他に行くなんて」

はたまた

「施設併設などではない単独（ショートだけがある）で大丈夫か」

「たった4床で、しかも個室で」

などなど…。

今ではどうでしょうか？ 日中はどこで過ごしているでしょうか。

また、満床になることが多く、希望される方にご迷惑をかけております。そこで増床をおこないました。

でも、面白いもので、今度は、

「こじんまりした良さがなくなる」

「施設っぽくなった」

などの声もお聞きします。

何がよいのか悪いのかは「相対評価」であり、過去の「基準」で私たちは判断してしまうものですね。

◆意識を変える（リスペクトする）

私が数年前に地元（上越）に戻った際に、不思議に思えたことがありました。それは次のようなコメントが聞かれたからです。

曰く、

「もっとお母さんが頑張らなければ」

「問題点がはっきりしない(問題が理解・整理されていない)」などなど…。とても不思議でした。まずは何を受け止めるのだろうか。

それは、『生きる』ということ、少なくとも「いま・ここ」まで養育されてきたことへのリスペクトかな…と。

生きづらさがあるから、「共に考える支援者」があり、問題点がまとめられるのであれば「会議の大半は不要」にもなるでしょう。考えることが私たち「支援者」の役割なのでしょう。

私たち事業所サイドでも、「リスペクト」という意味への誤解

や認識の差があります。

「口口なのにリスペクトなんてできない」

「口口なんて理解できない。リスペクトの意味がわからない」などなど。

「リスペクト」というと、「全人格を“全肯定”すると考えることが多いようです。確かに日本語では“尊敬”と訳されることもあります。でも、少し異なります。“相手”の考え方・価値観を、“相手のもの”として受け止めること”なのです。意見や価値観が異なることはむしろ健全で、全員が同じ考え方であればどうでしょうか？ 怖い世界では…？

そもそも、人は違うもの、また違ってよいもの。そこからまずは出来るだけ「合意点」を探り、産み出して行くことでしよう。

介護保険分野ベースの「地域ケアシステム」や障害分野の「我がごとまるごと」、そして児童養護施設から「里親」への移行強化などの政策ビジョンなどが示されています。そのキーは家庭や地域にコミットしていくことですが、そのために各地域・家庭・家族での尊重（いわゆる“リスペクト”）すべき【地域文化】や【家庭・家族文化】があります。誰も土足で踏み込み、批評・審判することできません。まさにまずリスペクトからです。

では、何が出来るでしょうか？ 何からすべきでしょうか？

それは「今から明日（未来）に向けて共に考え悩み、そして今よりよくする工夫を一緒に探すこと」なのでしょう。「生活する実践者」として共に歩むことでしよう。そして、若い職員や学生さんたちにはできるだけ多くの「価値観」「生き様」に触れて欲しいと願っています。「文化観」や日本には比較的薄いですが「宗教観」も同様です。故に可能であれば様々な場所へ行き、様々な人・場所・ものに触れて欲しいと願っています。

◆ 人道支援の基本（国際基準「スフィアスタンダード」より）最後に、福祉の根底は「人道」であり、「権利保護」です。人道援助の研修で示される基本を改めて記載します。

権利保護のために

1. 自らの行動の結果として、人々をさらなる危害に曝さないようにすること。
2. 必要性に比例し、差別のない、公平な援助への人々のアクセスを確保すること。
3. 暴力や抑圧による身体的および心理的な危害から人々を保護すること。
4. 自らの権利を主張し、可能な救済手段へアクセスし、虐待の影響から回復できるよう、人々を支援すること。

人道支援のために（一部抜粋）

- ・ 人道的見地からなすべきことを第一に考える。
- ・ 援助はそれを受ける人々の人種、信条あるいは国籍に関係なく、またいかなる差別もなしに行われる。援助の優先度はその必要性に基づいてのみ決定される。
- ・ 我々は文化と慣習を尊重する。
- ・ 救援は、基本的ニーズを充たすと同時に、将来の災害に対する脆弱性をも軽減させることに向けられなければならない。

内閣府の「専門分野横断的研修」に参加しつつ、想うことを書いてみました。新宿の高層ビル群の夜景がとても綺麗です。

では。